信州の遺跡をたずねる

高遠の遺跡

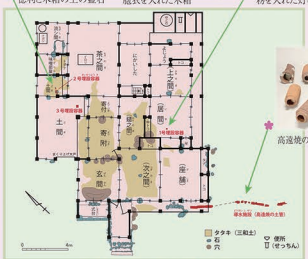
東高遠若宮武家屋敷遺跡

幕末（十九世紀）におけるサムライの屋敷跡を調査

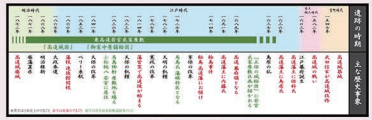
他利と木箱の上の蓋石

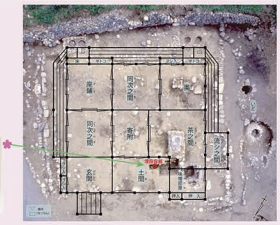
塩衣を入れた木箱

粉を入れた打明皿



「馬島家」住宅及び屋敷跡





塩衣を入れた行平鍋

「小松家」の屋敷跡

若宮の武家屋敷を記した『高遠城図』

平成十六年から三年間、国道152号伊那市高遠バイパスの建設に伴い若宮地区の発掘調査を行いました。江戸時代末期の状況を描いた『高遠城図』によると、この地区には九軒の藩士宅があり、今回の調査で三軒の建物跡を確認することができました。

小松家住宅跡

この建物跡は、礎石の配置から7つの部屋があることがわかりました。これを手がかりに文献史料を探ったところ、『御家中屋敷絵図』（一八三〇年から一八四三年ころ）に描かれた高遠藩士「小松純八」の屋敷間取図と見事に一致し、建物跡の居住者を特定することができました。

長野県宝「旧馬島家住宅」

現存する旧馬島家住宅の基礎部分にあたり、建物の曳き移転後に発掘調査を行いました。この住宅は高遠藩医「馬島柳軒」の屋敷として、二〇〇三年長野県宝の指定を受けており、今回の発掘で、部屋の床下から地鎮や産育儀礼に関わるとみられる遺構を確認できました。産育儀礼に関しては小松家住宅跡でも同様な遺構がみつかっており、江戸時代に行われていた儀礼的風習の一端を明らかにすることができました。

長野県教育委員会　長野県埋蔵文化財センター　伊那市　伊那市教育委員会

この解説板は平成25年度地域の特性を活かした史跡等総合活用支援推進事業で製作しました